

## 変わる地方の力

### 市場から共通課題の解決まで

ここ10年ほど、グローバル化の進展に伴い、日本の地方公共団体の国際化が急速に進んでいます。地方の国際事業といえば、かつては友好提携や姉妹都市を通じた両国の親善を深める活動が中心でしたが、現在は日本と海外の地方政府間にさまざまな相互関係が出てきました。

先日、香港を訪れたのですが、スーパーの食品売り場には茨城県産の野菜や福岡県産のいちごなど、日本という括りではなく地域の産品として扱われている商品が数多く並んでいました。数年前まで、地方公共団体が直接海外と経済活動を行うことはほとんどありませんでしたが、今や海外との関係なくして産業行政は不可能になってきているほどに関係が変化しています。観光面においては、日本から海外を訪れる人の方が多い時代が長く続きましたが、今ではここ京都もそうですが、海外から日本の観光地を訪れる人が急増しています。これをチャンスと捉えているさまざまな地方公共団体が、外国人観光客の受け入れ環境の整備を進めています。

さらに、お互いの地域が抱える課題の解決に向けて、もう一歩進んだ交流も生まれています。例えば、高齢化が進み、職員の人手不足に悩む日本の介護や福祉の現場を支えているのは、東



派遣前の壮行会で、お茶のたて方や飲み方についてレクチャーを受ける青年海外協力隊の隊員たち

また、私が顧問を務める「京都府 JICA ボランティア応援団」では、帰国隊員が府内に一人でも多く定着して地域社会に貢献できるように、JICA ボランティア事業の理解促進運動や帰国隊員の就業支援を行っています。地方の仕事の中にも、隊員が積んできた経験を生かせる分野はたくさんあります。それぞれが新しい仕事を見出す可能性も大いにありますし、それがグローバルな課題に結び付いていることも考えられるのです。

といった問題を抱える日本の縮図だと思っています。政令指令都市である京都市には学生や観光客が集中する一方、北部の海側には過疎高齢化が進む地域があり、南部には逆に人口が増加している地域もあります。このバランスを取ることができれば、日本全体のバランスを取ることできるはず。私たちは、北部を「海の京都」、豊かな自然に囲まれた中部を「森の京



京都府 JICA ボランティア応援団から派遣前の隊員に手渡される「京都セット」。京都の魅力の世界に発信するべく、お茶や和菓子などの名産品がたくさん詰められている

南アジアの研修員です。東南アジアでも10年後や20年後には高齢化の時代がやって来ると予想されていますので、彼らが日本で得た知識や技術は、この先それぞれの母国でも役立つはず。京都府も、環境保全のために中国・陝西省と植林事業を行ったり、インドネシア・ジョグジャカルタ特別区と伝統産業や文化財保護の面で協力し合ったりと、さまざまな地域と協力関係を築いています。

こうした中、これまで以上に JICA と地方公共団体が手を取り合って事業を行う機会も増えてくると思いますが、京都府では、JICA の事業を活用しながら、ベトナムのトゥア・ティエン・フエ省と一緒に地域の観光振興のための取り組みができないかと検討しているところです。

## 特別インタビュー

京都府知事  
山田啓一さん

# 京都 は 日本の縮図

## 世界に貢献する「共生社会」へ

歴史的な町並みや伝統的な文化が受け継がれ、多くの外国人観光客が訪れる京都。一方で、さまざまな格差や人口減少、高齢化など課題も多い。国内外の地方が手を取り合えることは――。共生社会の実現に取り組む京都府の山田啓一知事に聞いた。

### 「グローバル」な人材 青年海外協力隊に期待

国同士の外交では担えない草の根の関係を築く上でも、国際協力において地方公共団体が果たす役割は非常に大きくなっていると感じます。昨今よく聞かれる「グローバル」という言葉が表すように、地方自身がグローバルな視点でローカルな問題に取り組んでいくことが、今ほど求められている時代

はありません。青年海外協力隊の隊員は、グローバルな視点を持って世界に羽ばたき、それぞれの地域が抱える医療、教育、農業などの問題に取り組むという点で、まさに地方公共団体が強化していくべき経験を積んでいます。京都府は、こうした隊員たちの経験や活力を積極的に取り込むため、府職員採用に協力隊など社会貢献活動や国際業務で経験を積んできた方の枠を設けたり、現職の教員にも協力隊への参加を推奨したり



山田啓一（やまだ・けいじ）  
1954年兵庫県生まれ。東京大学法学部を卒業し、77年に自治省現総務省に入省。内閣法制局参事官や京都府副知事などを経て、2002年に京都府知事に初当選。現在、4期目を務める。11年より全国知事会の会長。

都」お茶の産地として歴史が長い南部を「お茶の京都」と銘打ち、京都が誇る文化を日本のみならず世界に発信していくためのプロジェクトを推進しています。それぞれの文化が相互に連携することによって京都全体が発展していく――そんな地方創生を目指すとともに、多くのグローバルな人材が活躍できる地域づくりを進めていきたいと考えています。